

# The 113th Local Meeting (The Hokuriku Federation) of The Japanese Society of Gastroenterology

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/30249">http://hdl.handle.net/2297/30249</a>

『学会開催報告』

第113回消化器病学会北陸支部例会

The 113th Local Meeting (The Hokuriku Federation) of  
The Japanese Society of Gastroenterology

金沢大学大学院医学系研究科分子細胞病理学  
(病理学第一)

鈴木 潮 人

平成23年11月13日(日)、金沢大学医学部十全講堂において日本消化器病学会北陸支部の第26回教育講演会が大井章史先生(金沢大学大学院医学系研究科分子細胞病理学)の主宰で開催されました。講演会に続いて、医学類G棟講義室において、第113回支部例会と第2回専門医セミナーが開催されました。当日は雨天にも関わらず、200名を超える出席者がありました。

教育講演会では、各分野の第一人者である4人の講師を招聘し、講演を賜りました。山本雅先生(東京大学医科学研究所・がん細胞増殖部門)には、「ErbBファミリー蛋白質群と細胞増殖シグナル」というタイトルで、v-erbB遺伝子のクローニングから、その後のErbBファミリー蛋白質(ErbB2, ErbB3, ErbB4)の同定、その正常機能と癌発症進展への関与、さらにこれらを分子標的とした治療薬の開発など、当該分野における研究の歴史的な進展を含めた包括的な内容について講演していただくとともに、ErbB2の下流因子である、MAPKとtoBを含めたシグナル伝達経路の研究の詳細に関して分かりやすく提示していただきました。中本安成先生(福井大学医学部・第二内科)には「肝がんトランスレシヨナルリサーチ」について、特に樹状細胞治療が肝臓における二次発癌を抑制する効果について、本学および福井大学の設備の紹介も含めながら、詳細に説明していただきました。北川裕久先生(金沢大学附属病院・消化器・乳腺・移植再生外科)には、「膵癌の治療に必要な進展度診断」というタイトルで、MDCT画像と病理組織像を対応させて癌巣の範囲について詳細に検討することによって、術前に効果的な手術範囲を決定することができることを示していただきました。伊藤透先生(金沢医科大学病院・内視鏡科)には、「SM胃癌の内視鏡診断と新しい治療法への取り組み」と題して、貴重な症例と共に生体ブタを用いた基礎的研究内容も提示していただき、低侵襲な腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術の確立に向けた取り組みについて講演していただきました。

支部例会では、食道、胃・十二指腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓、その他、のセッションに分かれて、50演題の発表がありました。診断や治療選択に難渋する症例に関する報告が主体で、診断に際して着目すべき所見や鑑別に挙げるべき疾患、さらに治療法の選択において重視すべき点について熱心な議論がなされました。特に、初

期・後期研修医の発表に対しては、先輩医師からの教育的なコメントも聞かれました。出席者は、各臓器における多数の疾患に関して診療に役立つ幅広い知識を得る良い機会となりました。

専門医セミナーでは、「進行肝細胞癌の一例」(北原征明先生、金沢大学附属病院・消化器内科)、「Cetuximabの奏効した切除不能進行再発大腸癌の2例」(中村慶史先生、金沢大学附属病院・消化器・乳腺・移植再生外科)について発表がありました。発表者による症例の提示に対し、コメンテーターからの発言がありました。出席者からは、経験の浅い医師のみならず、長い経験を有する医師にとっても有意義な内容であった、との感想をいただきました。

最後に、素晴らしい御講演を頂いた先生方と座長の労をおとりいただいた先生方にお礼を申し上げると共に、本学術集會を支援していただいた金沢大学十全医学会の皆様へ深く感謝します。



日本消化器病学会北陸支部例会

当番会長 金沢大学分子細胞病理学 大井章史

会期 平成23年11月13日(日)

第26回教育講演会

時間 / 午前9時~12時  
会場 / 医学部十全講堂

第113回支部例会

時間 / 午後1時~  
第一会場 / G棟第3講義室  
第二会場 / G棟第4講義室

第2回専門医セミナー

時間 / 午後4時16分~  
会場 / G棟第3講義室